

「ちよつと！ マッサージだからって
本当にこんな恰好する必要あるわけ!？」

「施術前に股関節の具合を
確認させていただいておりまして…
皆さんやっつていることですから、
恥ずかしいことはありませんよ。」

「私も体験しているから、
心配はいらないわ。
先生のマッサージは本当に
素晴らしいのよ？」

「ま、まあ
スプリングフィールドが
そこまで言うなら…!？」

「はい、では続いてこちらの
リラックス用プログラムを
インストールさせていただきます。」
「プログラムをインストール？
大丈夫なんでしょうねこれ…
…って あれ？
なんだか頭がぼーのと……」

プログラムのインストールを開始しました
プログラムがインストールされています。

「はっ!? 私、意識を失って…!?
やっぱりさっきのプログラム、おかしい!!」

パキ

「一体どうしよう!!」

……って!!

ちよつ!!? スプリングフィールド!!

なっなんでその男とそんな…!!

止めなさつ… くつ!! あれっ!!

身体が動かない…!!」

ズキ

パキ

パキ

はっ

あん

あん

「お、目が覚めたみだいな。
くくく、仲間がすでに寝返っているとは
考えていなかっただろ？
優秀な人形のようなだが迂闊だったな。」

「そ、そんな…あの
スプリングフィールドが…!!
くっ… やっぱ怪しい店
だったってわけね…」

「このまま信頼していた仲間の手で
無様にイかせてやる。
おい、可愛がつてやれ。」

「はい♡
おまかせください♡」

プログラムのインストールが完了しました
行動制御中
感度上昇中

「ちよっ!? 止めなさい!! あんた! 何でこんなヤツの命令になんて従ってんのよ! 目覚ましなさいよ!!」

「うふふ… あなたも先生のマッサージを受ければ分かりますよ♥ さあ、その前にしっかりと解しませんとね。」

「やめろ…くっ…!!
なんでっ…こんな感じて…!!」

くち

くちゅ

くちゅ

ピク

ピク

「先程のプログラムには感度を上昇させる効果もありますから。さあ、リラククスして… 快感に身をゆだねて…」

「ダメっ うそっ こ、こんな簡単に…っ!!
あっ ああっ ああああああっ!!」

プログラムのインストールが完了しました
行動制御中
感度上昇中

「うふふ、WA20000のイキ声、可愛らしいわ。」

「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「こんな状況だったのに随分簡単に
イツちまったなあ？」

「元々淫乱なんじゃないのか？」

キッ

「…ふざけるな!!
拘束が解けたらすぐに殺してやる!!
スプリングフィールドも殴つてでも
正気に戻してやるんだから!!」

プログラムのインストールが完了しました
行動制御中
態度上昇中

「やれやれ。人間様に向かって随分な口の聞き方だ…そんな悪いことを言う口にはお仕置きをしないとなあ？」

「なっ!? むぐっ!? ふん…っ!!!」

ズパイッ

「ククク…プログラムの効果で口の中もしつかり感じるはずだ」
「むふーっ!!!」

「あらあら、お口の中を犯されて感じているのね。
ここが物欲しそうにパクパクしていますよ。」

「んんん!!!? んーんーんん!!!」

くち

くち

びり

ズプ

ズチ

びり

「お、下も弄られて喉が締まったな。
いいぞその調子だ……!」

（上と下、同時にだなんて……!!
ダメツ 頭が真っ白に……!!）

「くっ！ そろそろ出そうだ…！」

「んぶっ!! んんん!!!」

(やつ!! 動きが激しく…!!?)

くち

くち
くち
くち

くち

くち

くち

くち
くち
くち

ず
ず
ず

ず
ず
ず
じ
じ
じ

「指を締め付ける力が強くなりましたわ。激しくされて、あなたもイきそうなのね。」

(そんな、スプリングフィールドも指を激しくして!!
こゝこんなこと続けられたら… ああつ……!!)

「んっ んんんんんんんん!!!」

「ふう……態度は悪いが、口の中は良い具合だったぞ。
どうやらお前も射精と同時にイったようだな。
オナホの自覚が出てきたじゃないか。」

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

「……フン!!」

「こんなの、プログラムのせいよ……
拘束が解けたら見てなさい……!!」

「ほう、まだ減らず口がきけるとは。
流石エリート様だ。
だが、そんな態度で
いられるのも今の内だぜ?」

「ちよつ、中はっ…!! くっ ふああああ!!」

「おつと…中出しされていつたようだな。
まだ言つてなかつたが、
さつきお前にインストールしたプログラムには
もう一つ機能があつてな。
お前が絶頂する度に
俺への好感度が上がるんだ。」

ド
プ

ブ
ホ
ホ
ホ

「なんですって!!
その辺のプログラムで、
メンタルモジュールのセキュリティが
突破できる訳ないじゃない!」
「ま、すぐに分かるさ。」

絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
5/100

「ハツタリだわ……！
私がこんなヤツ好きになる訳ない！
私は指揮官の戦術人形だもの！！」

「ククツ……またイつたな？
堪え性の無い奴だ。
そんなペースだとどんどん
好感度が上がっちゃうぞ〜？」

ド
ニ
キ
ユ

ド
ニ
キ
ユ

ド
ニ
キ
ユ

ド
ニ
キ
ユ

「ふんっ！
プログラムで身体を操作して、
嘘までついて……ほんと最低ね……！！
こんなこと続けたつて
どうせ無意味なんだから、
さっさと諦めなさいよ……！！」

絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
30/100

絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
50/100

「おおっと。またいつたなあ？
どうした？ 回数が減ってきたようだが？」

（お、おかしい……！
さつきまでこいつのことが
あんなに気持ち悪くて
不快だったのに……）

ド
ス
ユ

ズ
ス
ユ

ド
ス
ユ

バ
ス
ユ

（こいつに犯されることを
だんだんと何とも
思わなくなってきた……!!
まさか、ホントに好感度が
上がってるというの……!!）

絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
80/100

「ハーツハツハ！
ずいぶん蕩けた顔をするように
なつてきたじゃないか！
どうだ？ そろそろ俺の
オナホ人形になる気になつたか？」
「誰が…っ！
あんたなんかの思い通りに…っ！」

（そんな… 奥を突かれる度に
幸せな気持ちが増える…！
こんなヤツ、憎くて
嫌いなハズなのにどうして…!!
ダメツ！ 流されちゃ…!!
本当に好感度の数値が
上がっているとしても、
100にさえならなければ
抵抗は出来る…!!）

バキユ

ドキユ

バキユ

「くっ!!? うううう... はうううううう!!」

「お、これで95か。そろそろ100になっちゃうなあ? いい加減諦めたらどうだ?

人形はメンタルモジユールの数値には逆らえねえんだぜ?」

「いやっ!! いやあっ!!
こんな男のオナホになんて
なりたくないっ!!」

「口ではそう言いつつも、
さつきから膣は
チンポを締め付けて
種ごいしてやがるるぜ。」

ドクッ

ドクッ

「身体の方はもうとつくにオナホに
なりたがってるんじゃないか?
そんなに中出しされてイキたいなら、
望み通りにしてやる!!!」

「!? ダメツ そんな激しく動かないでっ
ホントにもうダメなのっ!!」

あっ!!? あああ!!

あああああああ!!!」

「いやっ助けて...!!」

指揮官...!! 指揮官...!! (!!!)

絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
95/100

「ガッパハツ!!! 良い眺めだぜ!!!
さあ、オナホ人形はどうやって
ご主人様に挨拶するんだ?」

ふり♡

「ご主人様♡
これからも私たちを沢山オナホとして
使ってください♡」

ふり♡

ふり♡

「まったく...
私がこんな恥ずかしい恰好するのは
あんたにだけなんだから...
感謝しなさいよね...♡」

プログラムのインストールを開始しました。
プログラムがインストールされています。
...





プログラムのインストールが完了しました
行動制御中
感度上昇中



プログラムのインストールが完了しました
行動制御中
感度上昇中



プログラムのインストールが完了しました
行動制御中
感度上昇中











プログラムのインストールが完了しました
行動制御中
態度上昇中





絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
♥ 5/100



絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
30/100



絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
50/100



絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
♥ 80/100



絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
♥ 95/100



絶頂が確認されました。
好感度が上昇します。
現在の好感度
♥ 200/100

